

寄贈本

寄贈本

明治
44. 8. 12
寄贈

天 神

祖 人

神

一

心

道

天 地 正 開
神 世 至 全

神 世 救 世 神 世 の 一 卷 の 二

大教正服部國光著

天 地 海 三 界 は 一 な り 故 神 は 一 な
 り 故 靈 は 一 な り 故 人 は 一 な り
 故 國 は 一 な り 故 世 は 一 な り 一
 は 神 な り 則 ち 神 の 一 と ち 是 れ 大

神世の一なり

神世の一六道

第一の五徳の道

第二の五倫の道

第三の上人五段の道

第四の上人五心の道

第五の下人五段の道

第六の下人五心の道

此の六道は人類の天性を顯したる

道なり

神世の一五徳

第一の神威の神威

を求むべし

第二の健康の神力拜禮を勤めて健康

を求むべし

第三 長壽 神力拜禮を勤めて長壽

を求むべし

第四 福裕 神力拜禮を勤めて福裕

を求むべし

第五 愛敬 神力拜禮を勤めて愛敬

を求むべし

此の五徳は五倫の護りとなる

第一 神力拜禮よて我か神威を戴

忠節を護り君臣の道を行ふべ

し

第二 神力拜禮よて我か健康を戴

孝養を護り父子の道を行ふべ

し

第三

神力拜禮よて我が長壽を戴

情愛を護り夫婦の道を行ふべ

し

第四

神力拜禮よて我が福裕を戴

親睦を護り兄弟の道を行ふべ

し

第五

神力拜禮よて我が愛敬を戴

し

信誼を護り朋友の道を行ふべ

し

神世の一五倫

第一君臣は君よ事ふるよ神力

を本として二心なく忠節を盡す

べし君は臣を我が體の如く恩ひ

恵み心身を慰勞し君臣とゆよ人

し

たるの道を守り全うすべし
 第二父子 子は父より事ふるより神力
 を本として二心なく孝養を盡す
 べし父は子を慈育するより神理學
 業を習得せしめ神人たる徳を具
 へしめて父子とも人たるの道
 を守り全うすべし

第三夫婦 天地は夫婦の始めなれ
 ば夫婦は天地の恩功を思ひ神力
 を本として二心なく夫は婦を愛
 し婦は夫より随ひ相和合して夫婦
 とも人たるの道を守り全うす
 べし

第四兄弟 兄は弟を愛し弟は兄より

順したがひ一體いつたい相睦あひむつみて神力しんりきを本もととし
て二に心しんなく互たがひにあやまちを正ただし兄けい姉し
弟てい妹まいともよ人ひとたるの道みちを守まもり全まった
うすべし
第五だいご朋友ほういう天下てんかの萬人ばんにんは皆みな朋友ほういうな
れば一體いつたい相信あひしんじて神力しんりきを本もととし
て二に心しんなく互たがひにあやまちを正ただし朋友ほういう
第五だいご朋友ほういう天下てんかの萬人ばんにんは皆みな朋友ほういうな

ともよ人ひとたるの道みちを守まもり全まった
うす
べし

此この五ご徳とく五ご倫りんは人にん道だうの要かぎめなり故ゆゑよ
人ひとは口くちよ誠まことを言いひ身みよ誠まことを行なひて
言げん行かうを一いつ致ちならしむべし言げん行かう一いつ致ち
ならざれば我わか心こころを欺あやむき我わか身みを
欺あやむき天てんを欺あやむくよ至いたるなり彌いよいよ斯かくの如ごと
欺あやむき天てんを欺あやむくよ至いたるなり彌いよいよ斯かくの如ごと

く欺あざむかば終つひよ天てんの懲こらしを受うくること
ととななるべし人ひとは天地てんちの神かみの鏡かがみよ
映うつされてある人ひとなるが故ゆゑよ一言いちげん一行いっかう
一事いちじ一物いちぶつとして皆みな穩かくす所ところなく亦また匿かく
るる所ところなし則すなはち五德ごとく五倫ごりんの道みちは生いき
世よの人にん道だうよして又また死ししても靈道れいだうと
なりて離はなるることなき神德しんとくの道みちな

るを以もちて誠まことは皆みな我わか爲ためと思おもひ定さだ
め克よく之これを吾わか心こころよ藏をさめて吾わか
心こころを磨みがき五德ごとく五倫ごりんを明あきらか行たこなふべし
全まっく斯かくの如ごとくなさは自然しぜん天てんの惠めぐみ
を承うけて運勢うんせい隆さかんとなるのみならず
其その一生いっしやう涯がいよ人道にんだうを守まもり盡つくせし
功徳こうとくは永久えいきゅう盡つくることなし又また死しし

て後のち其その靈みたまは皆みな天てんの本ほん道だうよ歸かへるな
り故ゆゑよ人ひと人ひと皆みな斯この道みちよ至いたらば此この
世よ其その功こう徳とくを遺のこし萬ばん代だいの鑑かがみとな
りて永えい久きゆう稱たへらるるのみならず靈みたま
となりては天てんの本ほん道だうよ歸かへりて高たかき
位くらゐを賜たまはるよ至いたるなり又また斯かかる明めい徳とく
のひと人ひとの子し孫そんよして其そのひと人ひとの志し念ねんを

け繼つぐ人ひとは皆みな其その靈みたまも又また天てんの本ほん道だう
よ歸かへる天てん徳とくを承うくるなり靈みたま天てんの本ほん
道だうよ歸かへらむ其その靈みたま神かみとなりて大だいよ
しては國こく家かを守まもり小せうよしては其その
家いへ其その親しん族ぞくを守まもり又また地ちよ下くだりて人ひと
となりては其その時じ勢せいの運うん徳とくよ備そなはる
なり故ゆゑよ斯この道みちよ背そむくものは不ふ運うん

よ報いて其の心を亡し其の身を亡し其の道を亡し皆迷ひとなりて此の世よ不徳悪名を遺すのみならず靈は天の本道よ歸ること能す此の時天道の責めとなりて人靈の交りを得ざるが故よ中途よ流浪して萬物の靈と一よなりて其の家其の親

族の禍となるなり斯る悪靈相集りては牛馬其の他の諸靈まで此の世を怨む悪靈は皆一よなりて天下國家の禍よ報いなすこと甚し即ち人よ對ひては諸病難病よ惱し世よ對ひては悪氣悪風となり總で作物の病となりて害をなすこと大なるも

のなり其れ惡靈の禍は眼に見せず
と雖も諸病一變じ其の害あるを見
て其の大なるを知るべきなり小
しては一人一家の禍となり大よし
ては一國天下の禍となるなり之れ
則ち天道の穢れなるが故一外靈た
りと雖も捨て置かず皆呼び集めて

是等惡靈の迷ひを洗ひ正し纏ひ祭
りて人人天下國家の禍を除くは之
れ亦神世を救ふべきの道なり故
人は天地自然の道一隨ひ靈道を明
よしして子孫の爲を思ひ其の罪を作
らす天地の神を敬ひ祭りて心一離
さず大恩一報い奉るを人たる道の

大本たほもととなすべきなり天地てんちの神かみの御み
心こころは天地てんちの間あひだありとある一切いっさい萬ばん
物ものを憐あはれみ恵めぐみて豊ほう作さくよ立たち榮さかねし
め給たまふ道みちなるが故ゆゑよ此この大だい恩ねんを善よ
く心こころの底そこよ留とどめて哀あはれなる人ひと哀あはれ
なる物ものよは日じ救ひ月な助さけを致いたすべし即すなは
ち困こん難なんなる親おやなき子こ子こなき親おや夫をつとな

き婦つま婦つまなき夫をつと癡はい人ひと病びやう人ひと等とう其その實じつ狀じやう
よ照てらし條ぢう理りを立たてて及たぶ限かぎりよ救すく
ひ助たすくべし全まづく斯かくの如ごとくなさば天てん
地ちの神かみの守まもりを強つよく戴いたき萬ばん人ひとの尊そん
敬けいを受うけて其その身みは安あん心しん其その家いへは
繁はん榮えいよ至いたるべし天てんは日じつ月げつ晝ちゆう夜やの行ぎやう
道だう星せいも殘のこらず晝ちゆう夜やの行ぎやう道だうを宣のたまひて

天^{かつ}妙^{めう}法^{ほふ}の一流^{いっしやう}れ天道^{てんたう}四^し時^じの乱^{みだ}るる
ことなく人^{ひと}を始^{はじめ}め穀^{こく}類^{るい}萬^{ばん}物^{ぶつ}一切^{いっさい}
よ至^{いた}るまで皆^{みな}氣^き候^{こう}の惠^{めぐ}みを授^{さづ}け養^{やしな}
ひ立^たて給^{たま}は之^{これ}れ天^{てん}祖^そ大神^{かみ}の御^み詔^{めがき}
給^{たま}ふ御^ご威^い徳^{とく}よして天^{てん}の道^{みち}なり人^{ひと}は
其^その惠^{めぐ}みを受^うけて人^{ひと}と物^{もの}とよ日^じ救^い
月^{つき}助^{すけ}を致^{いた}すは人^{ひと}の道^{みち}なり人^{ひと}は上^{じやう}下^げ

の別^{べつ}なく日^じ救^い月^{つき}助^{すけ}を以^もちて道^{みち}を救^{すく}
ひ助^{すけ}け人^{ひと}を救^{すく}ひ助^{すけ}け物^{もの}を救^{すく}ひ助^{すけ}く
べし哀^{あは}れなる人^{ひと}哀^{あは}れなる物^{もの}を救^{すく}ひ
助^{すけ}くるよは其^その哀^{あは}れなる人^{ひと}其^その哀^{あは}
れなる物^{もの}よ我^わが心^{こころ}を移^{うつ}して救^{すく}ひ助^{すけ}
くべし小^{せう}よしては一人^{いちにん}一^{いち}物^{ぶつ}を救^{すく}ひ
助^{すけ}け大^{だい}よしては天下^{てんか}國^{こく}家^かを救^{すく}ひ助^{すけ}

くべし眼よ見ぬなき天地萬神の力
は高大精微無量無邊の活動よて人
類萬物の顯れとなり眼よ見ぬなき
神力拜禮の力は天地海神一體和合
となり給ひて虚空國土の邪氣を滅
し誠の道誠の人の顯れとなる形あ
るものは形なき道より生ずるが故

よ形なき我か心を眞心よなさずん
ば形よ顯るる道を正すことを得ず
則ち形なき天地の神の御心を形な
き我か心よ戴きて我か心を眞心の
一よ止むるは是れ人道の本元なり
克く此の本元を了りて一身一家の
小を修め天下國家の大を治むべし

一家を齊むるも一國天下を治むる
 も道理よ於て同じければ一家を善
 く齊むるよは善く一國天下の時世
 を視て我が家の程度を知り總ての
 事物を應分よなすべし又哀れなる
 人哀れなる物よ神徳金圓物品を與
 ふるよは大小とも心より清く與ふ

へし然れども何程よ心より清く與
 へんとなすも全く與ふる神徳もな
 く金品もなくんば與ふることを得
 す故よ人は常よ神力拜禮を勤めて
 神徳を積み重ね業務を精進勉勵し
 て萬用を節約貯蓄し以ちて善く自
 他の分度を量り其の道よ備へ充べ

し然しかんども過度とども勤務きんむ勉勵べんれいして身心しんしん
を衰弱すわくじやくせしめ再び起たつ能あたはきるも至いたら
しむるは道みちもあらず又また節約せつやく貯蓄ちちくす
るも我が分ぶんも應たうずるを知らず他たを
惱なやまして金品財寶きんぴんさいほうを貯蓄ちちくするも道みちも
あらず善よく此この道みちと此この程はばを知る
ことを要えうす金品財寶きんぴんさいほうも夥くわ多たなれば

竟つひも心こころも穢けがるることあり即すまはち心こころは
吾わか體たいの主あるじなれを常つねも真心まごころの一いちも
止とどめて必かならず迷まよひ動うごくべからず何程なにほど
も金品財寶きんぴんさいほう夥くわ多たなるも其その爲ためも吾わ
か心こころを亡ほろぼし吾わか道みちを亡ほろぼし後のちの世よも
拭ぬぐふべからざる不徳ふとく惡名あくめいを遺のこすべ
からず金品財寶きんぴんさいほうは我が分度ぶんども應おうじ

て世の有益の道は用ひてこそ金品
財寶の光徳は顯るるに至るなり我
れを忘れて人の爲我れを忘れて君
の爲天を立つれば國か立ち人を立
つれば人亦我れを立つること之れ
天地自然の道理なり故は我か爲め
よ過分の金品財寶を好み人を掠め

遊樂を專となし人たるの分別を失
ふものは貴賤ともよ皆亡びざるは
なし之れ又天道の自然なり天道は
世界の主よして世界の親なり世界
の萬人は皆其の子の如し其の子を
養ふは天道の役なり一國の主は一
國の親なり一國の萬人は皆其の子

の如し其の子を養ふは其の親の役
なり故よ其の國よ生み作れる穀類
萬物一切は其の國の人を養ふ如爲
よ天より生み授け賜ふものなり世
界よ生み作れる穀類萬物一切は世
界の人を養ふ如爲よ天より生み授
け賜ふものなり然らば天は親なり

り物は皆天の物なり然らむ皆一國
の親の物なり皆世界の親の物なり
天の主の宣ふ所誰物ならト皆天よ
り恵み授けて一國の人物のあり世
界の人の物あり

歌

我か物と思ふ

三四
天も道もあく

まさ程つらき

身こそ悲しけ

然らば人皆我が物よ迷ひて道を失
はす天を畏れ敬ひ道を行ひ祭ること
と是れ誠あり道の爲身ぞ修め家ぞ
齊め君の爲國家の富貴よ立ち榮ゆ

るを我が爲となすべきなり全く斯
の如くなさは天は一切を格別よ恵
み賜ふものなり

歌

恵み遇ふ人は萬の

隔てなく

救ひ助くる

天の祖神

其れ忠孝の道は何程深く盡すとも
其の功を思はざるを肝要となすべ
きなり天祖大神の宣ふ所何程よ厚
き恵みと宣ふとも更よ恩よ思ひ給
はす其の厚きこと其の深きこと量
り限れず之れ親か子を育つるが如し

故よ人は此の高大精微無量無邊ま
る天恩と克く謝り善く祭るべきも
のあり何程よ忠孝と盡すとも忠孝
よ過ぎたると云ふことあし則ち眞
心と以ちて忠孝を盡すと盡さざる
と天地の神の鏡よ日日夜夜映れ
つつあるものあり

歌

生きて人死して

神ある神事の

神の覺る眼よ

蔭障りまし

則ち忠孝の爲よ其の盡すことぞ深

く功に思ハバ忠孝深き程心に不足

を生ずるよ至るべし然らば天よも

稱はず忠孝よもならず結局不忠不

孝となる故よ克く此の道理を心の

底よ鎮め慎みて分別なすべし又尊

むよも心を隔つべからず心隔ち過

ぐれば次第よ情愛薄くなりて亦忠

孝よ足らず故よ忠孝は偽りなく私

なく身命を惜まず眞心を立て通す
こと忠孝の誠なり全く斯の如くな
さば天よ稱ひ格別天の恵みを承く
ること高大となりて子孫よ徳ある
人授るなり又其れのみならず人よ
忠孝の眞義を活傳せしめ人道を守
り全うなさしむるの鑑となるなり

又君と父は我が體の疲勞の時を感
じて臣と子の忠節孝養を知りて深
く恵み憐むを道となすべし則ち上
下の別なく日救と月助のなき人は
人よあらず故よ人は日救月助を吾
か生命身體と知るべし是れ大神世
の一の道なり

茲こゝよ神かみ世よの人の段だん格かくあり神かみ世よの人ひと
 は天てん祖そ大神かみより定さだめ給たまふ御ご威ゐ徳とくの
 戴いたさよて上じやう人よん五ご段だんを以もちて天てん祖そ大れは
 神かみの神かみ世よの神かみ人ひとと云いるなり
 神かみ世よの一いち上じやう人にん五ご段だん
 第一だい官くわん刀たうの生うまれ官くわん刀たうは天てん徳とく具そなはりて
 日に教ひを保たもち月な助けを司つかさどる人ひとなり

第二だい官くわん正しやうの生うまれ官くわん正しやうは天てん徳とく具そなはりて
 月な助けを保たもち星かん度にんを司つかさどる人ひとなり
 第三だい正しやう刀たうの生うまれ正しやう刀たうは神かみよ具そなはりて
 星かん度よんを保たもち神か智ちを司つかさどる人ひとなり
 第四だい正しやう直じきの生うまれ正しやう直じきは神かみよ具そなはりて
 神か智ちを保たもち平たいらかを司つかさどる人ひとなり
 第五だい善せんの生うまれ善せんは神かみよ具そなはりて鎮ま魂け

を保ち善を司る人なり
 之れ一體よ神世大善の人なり神世
 大善の人は神世の真心具るなり
 神世の真心
 上人五心
 第一日救の心 日救は天道の如く
 天地よ稱ひ位徳長壽の基となり

て盡くることなき天徳善人の種
 播きなり
 第二月助の心 月助は天道の如く
 天地よ稱ひ助け助るの基となり
 て天徳善人の種播きなり
 第三星度の心 星度は無異長久よ
 至り安徳の基となりて善人の種

播まきなり

第だい四し神か智ちの心こころ

神か智ちは天てん地ちの自し然ぜん

よて偽いつはり曲まがることなき平へい德とくの基もと

となりて善せん人にんの種たね播まきなり

第だい五ご鎮ま魂けの心こころ 鎮ま魂けは天てん地ちの憐あはれみ

深ふかく後のち程ほど強つよき善せん德とくの基もととなりて

善せん人にんの種たね播まきなり

之これ一いつ體たいよ神か世よ大だい善せんの心こころなり神か世よ

大だい善せんの心こころは神か世よの真ま心こころを全まうなす

なり 神か世よの病やまひ人びと之これより下げ人にん五ご段だんを以も

ちて人にん間げんと云いへるなり

神か世よの病やまひ下げ人にん五ご段だん

第だい一いち慾よくの生うまれ 慾よくは神かよ遠とほく德とくを知し

知らず鄙吝を司る人間なり
 第二 酷の生 酷は神よ遠く日救を
 知らず貪婪を司る人間なり
 第三 悪の生 悪は天よ憎れ月助を
 知らず掠奪を司る人間なり
 第四 我鬼の生 我鬼は天の責めよ
 て足るを知らず根戾執拗を司

る人間なり

第五 引鬼の生 引鬼は天の見捨よ
 て耻を知らず偷盜殺戮を司る人

間なり
 之れ一體よ神世の病大悪の人間な

り神世の病大悪の人間は神世の病
 妄心を爲すものなり

神世の病妄心かみやまひみだりごころ

下人五心げにんごしん

第一鄙吝の心だいいちひりんごころ 鄙吝は天よ背け損ひりんはてんよそひそん

ずるの基もととなりて諸病の種播しよびやうのたねまき

なり

第二貪婪の心だいにせんらんごころ 貪婪は天よ背け禍せんらんはてんよそひわざはひ

の基もととなりて悪の種播あくのたねまきなり

第三掠奪の心だいさんりやうだつごころ 掠奪は天よ背け身りやうだつはてんよそひみ

を亡ほろぼすの基もととなりて我鬼の種播がきのたねまき

きなり

第四根戾執拗の心だいしこんれいしよあうごころ 根戾執拗は天

よ背そひけ不運ふうんの基もととなりて引鬼ひきの

種播たねまきなり

第五偷盜殺戮の心だいごとうたうさつりくごころ 偷盜殺戮は天

の見捨てよて滅するの基となり
 て國賊の種播きなり
 之れ一體よ神世の病大悪の心なり
 神世の病大悪の心は神世の病妄心
 を爲すなり
 上人五段よ生るる人は上心五心を
 保つこと天祖の定めなり

第一官刀は日救を保つ
 第二官正は月助を保つ
 第三正刀は星度を保つ
 第四正直は神智を保つ
 第五善は鎮魂を保つ
 之れ天地の自然なり
 下人五段よ生るる人は下心五心を

爲すこと天祖の定めなり
 第一 慾は鄙吝を爲す
 第二 酷は貪婪を爲す
 第三 惡は掠奪を爲す
 第四 我鬼は根戾執拗を爲す
 第五 引鬼は偷盜殺戮を爲す
 之れ天地の自然なり

茲よ上人五段下人五段を合して十
 世界の顯れとなる
 第一 官刀世界
 第二 官正世界
 第三 正刀世界
 第四 正直世界
 第五 善世界

第一世界より第五世界までは上人
 世界なり
 第六世界 慾世界
 第七世界 酷世界
 第八世界 惡世界
 第九世界 我鬼世界
 第十世界 引鬼世界

第六世界より第十世界までは下人
 世界なり
 神世大善世界は第五世界より第一
 世界まで進み行くこと之れ順道な
 り
 第五善世界となり善世界より正
 直生るるなり

第四 し 正直世界 しやうじきせかい となり 正直世界 しやうじきせかい よ

り 正刀生 しやうたううま るるなり

第三 さん 正刀世界 しやうたうせかい となり 正刀世界 しやうたうせかい よ

り 官正生 くわんしやううま るるなり

第二 に 官正世界 くわんしやうせかい となり 官正世界 くわんしやうせかい よ

り 官刀生 くわんたううま るるなり

第一 いち 官刀世界 くわんたうせかい となり 官刀世界 くわんたうせかい 茲 こゝ

よ 至 いた らば 大神世 たはかみせ の道 みち 全 まつた うなすな

り

神世 かみよ の病大悪世界 やまひだいくせかい は第六世界 だいろくせかい より

第十世界 だいじよせかい まで 落ち行 おちゆ くことと之 これ 順 じゆん

道 だう なり

第六 だいろく 慾世界 よくせかい となり 慾世界 よくせかい より 酷 こく

生 うま るるなり

第七 酷世界となり 酷世界より 惡
 生るるなり
 第八 惡世界となり 惡世界より 我
 鬼生るるなり
 第九 我鬼世界となり 我鬼世界よ
 り引鬼生るるなり
 第十 引鬼世界となり 引鬼世界よ

り國賊生るるなり
 國賊茲よ至らば 天の見捨てなる
 が故よ人間界を離れて 心は惡魔
 となるなり

此の五世界は 天の本心よ 背けるが
 故よ 此の世よ 不徳惡名を 遺すのみ
 ならず 靈は 天の本道よ 歸れず 其の

罪毎つみごと一いつ界かいづつ天てん界かいの蹴け落たしとな
りて結つ局り下げ天てんよも歸かへれず道みちなき靈みたま
となりて中ちゆう途とよ流る浪らうして鳥てう獸じゆう虫ちゆう類るわ
と一ひつよなりて迷まよひ苦くるむが故ゆゑよ其その
家の禍わざはひとなりて諸しよ病びやうよ變へんじ惱なやます
こと甚はなはだしきよ至いたるなり然しかれども此
の時とき神しん力りき拜はい禮れいの德とくよ其その罪つみを洗あらひ

清きよめ勤つとめ祭まつらば大た神かみ等たちの御おん日に救ひを
垂たれ賜たまひて其その度たび毎ごとよ引ひ鬼き世せ界かいよ
り更かり更かりて一いつ界かいづつ立たち上のぼり數すう
年ねんを累かさねて漸やうやく人にん間けん界かいの慾よく世せ界かいよ出い
づるなり茲こゝよ慾よく世せ界かいより尙なほ道みちを守まも
り神しん力りき拜はい禮れいの德とくを積つみ上あぐれば自し
然ぜん諸しよの罪つみ穢けがれは盡つき果はてて漸やうやく天てんの

本道ほんだうよ稱かなひ神かみの座ざよ列つらなり其そのれより
道みちを以もちて愈いよいよ善せん世界せかいよ生うまれ出いづる
なり故ゆゑよ善せんも悪あくも上のぼるも下くだるも其その
本もとは慾よく世界せかいのひとつ一ひとつより心こころ一ひとつの行なひよ
依よりて善せんも更かはり悪あくも渝かはるもの
なり又また天てんの蹴け落たしとなりたる靈みたまを
其そのの儘ままよ捨すて置おかば限かぎりなく其その
六四

子し孫そん親しん族ぞくよ崇たりて子し孫そん親しん族ぞくを惱なやし
結つま局り亡ほろすこととなる之これ一い戸こたり
とも亡ほろび盡つくこととは恐おそるべきこと
となり則すなはち満みれば一いつ國こくも同た道みちなり
我われよて我われを恐おそるべきは強が慾よく無む
日じ救ひ無む道だうなり故ゆゑよ人ひとは道みちを行なひ祭まつ
り神しん力りき堅けん固こよして靈みたまの罪つみを洗あらひ清きよめ
六五

下人世界こそ残らず洗ひ亡し皆助
け上げて上人世界より出すべし之れ
生世の道生世の人の役なり我か心
愈善よ上るも悪よ下るも茲よあり
今日の生世を本として心の行ひ一
より天地の神よ憎れて子孫累代限
りなく天の懲しとなるときは諸病

の谷へ蹴落れ強悪無道よ落ち行き
て下人世界より出づるなり下人世界
よ出づるとも上人世界より出づると
も二一の心のみ茲よ心を新換へて
今日の生世を本として神世の教を
克く守り固く尊く善く盡し道よ隨
ひ行はば天地の神よ守れて諸病の

罪を皆果し子孫累代限りなく天地
の神よ救れて上人世界よ出づるな
り則ち下人世界は病る人間なり病
の本は慾世界の一より滿れば五世
界の病となりて天道の穢れとなる
なり故よ此の病を亡し此の病を果
さは愈上人世界よ至るなり萬禍

の大本は慾が始めよして不忠不孝
も己の引き慾より起る禍なり故よ
酷も慾悪も慾我鬼も慾引鬼も慾引
鬼は慾の積り募りたるものなり慾
は天の畏れを知らす心よなさす國
の爲を知らす心よなさす人の爲を
知らす心よなさす理もなく道もな

く日救も月助も更も思はず己の引
き慾のみなして少も他を顧みざる
か慾の親なり又我れも授らぬ金品
財寶を好みて他を偽り道なき道を
作り曲げ曲りて我か物となすこと
は天の憎み給ふ所もして之れ強慾
なり又他の困難も附け入りて更も

情愛なく己の爲他も與へを薄く無
理非道なる扱ひをなすも強慾なり
又言語の通ぜざる牛馬も至るまで
過分の重荷を積みて無日救も使ひ
なすも強慾なり又鳥獸虫類も至る
まで道なくして生命を断つも強慾
なり心も偽りなく曲ることなくし

て唯己の爲に金品財寶を漁き取り
我が分よ應じて其の限りを知らざ
れを結局無日救となる之れ又強慾
なり日救は慾より生ずるを以ち
て慾は無日救の親なり慾は天の憎
み給ふ所よして黒雲の如く此の息虚
空よ滿つる所濁水の如し日救は神

の惠み給ふ所よして明鏡の如く此
の息虚空よ滿つる所清水の如し故
よ慾を責むるは日救の道なり即ち
無日救無道の強慾を亡し盡すは是
れ神世の一の真心が太く立ち天よ
稱ひて大安國と治るの爲なり故よ
人は天を畏れて日救を行ふを道と

なすべきなり則ち斯の如く道を行
はば其の道天道の如し何れの家業
をなすとも業務の道は皆神政農工
商の道なるが故に職務の道を大切
に勵み勤め行ひ祭ること之れ天の
なし給ふが如き道にして此の道に
授る徳は何程多く授るとも隆なる

程道となすなり總て正道の誠より
授る徳は自然の徳にして富貴なる
程皆天のなし給ふ所なり則ち神世
の一を克く守り善く盡して國家を
思ひ天下の爲に天下泰平國土安穩
七穀成就豊作圓滿の拜禮を勤め奉
らば天地と與ふ斯の道をなすが

如くよして天は之れを明よ御享け
授けなし給ふなり國の爲人の爲よ
寶を祈るは天の本心よ稱ひて是れ
人の道なり道を行ひて道の人なり
上心五心は天の本心より生れ具り
て五心は一體よ皆善心の一なり人
人善心の一よ至らば愈神世の一の

上人世界と至るなり
第五善世界善は平穩よして正直
を護るよ當る善ありて正直立ち
善は總體の護りよして共よ立つ
る則あり
第四正直世界正直は正刀の弟の
如く妹の如し正直は正刀を護る

第三 だいさん 正 しやう 刀 たう 世 せ 界 かい 正 しやう 刀 たう は 正 しやう 直 じき の 兄 あに の
 如 ごと く 姉 あね の 如 ごと し 正 しやう 刀 たう は 官 くわん 正 しやう を 護 まも る
 よ 當 あた り 又 また 正 しやう 直 じき を 惠 めぐ む よ 當 あた る 正 しやう 刀 たう
 ありて 官 くわん 正 しやう 立 た ち 又 また 正 しやう 直 じき を 保 たも つ
 第二 だい に 官 くわん 正 しやう 世 せ 界 かい 官 くわん 正 しやう は 官 くわん 刀 たう の 弟 たご の

第一 だいいち 官 くわん 刀 たう 世 せ 界 かい 官 くわん 刀 たう は 官 くわん 正 しやう の 兄 あに の
 如 ごと く 姉 あね の 如 ごと し 官 くわん 刀 たう は 神 かみ 世 よ の 一 いち よ
 具 そなは り 又 また 官 くわん 正 しやう を 惠 めぐ む よ 當 あた る 官 くわん 刀 たう あ
 りて 神 かみ 世 よ 立 た ち 萬 よろづ 一 いち よ 治 をさま る 又 また 官 くわん 正 しやう

を保つ

官刀世界粵よ至らば正よ大神世の

本體なり大神世の本體なる官刀世

界は大なる神世の一よして大なる

神世の眞心なり則ち上心五心は皆

善心の一よして之れ大神世の本心

なり大神世の本心は神力を本元よ

日救と月助を大本となすなり

日救は我が子を愛するか如く他の

事他の難を見ては我が事我が難の

如く思ひ憐み愛して我が身の我れ

を忘れて餘さず救ひなす心是れ人

の日救なり則ち人を思ひ國を思ひ

天下を思ひて其の道の爲其の道を

救ひなすことを誠の日救と云ふな
り又天よありては天より人を始め
よ穀類萬物を造り給ひてありとあ
る其の萬物は一切天よて皆我が子
なるか故よ天道晝夜の行ひ四季よ
分りて土用の至り雨の味はひ霧の
味はひ露の味はひ氣候の徳は土よ

満ち息よ立ち風よ吹きて日の御照
し月の御垂し星の度自然よ味合ひ
給ひて皆我が子たる人を始めよ穀
類萬物一切を無限よ恵み養ひ賜ふ
なり則ち此の大御心か天よて日救
の本體なり
月助は日救の端緒なり他の難を見

るや直ただちよ其そのの難なんを深ふかく思おもひて我わか
心こころよ離はなるることなく何なに様いやうよも助たすけ
んと其そのの一ひと筋すぢを貫つらぬく心こころ是これ人ひとの月な
助さけなり又また天てんよありては天てんより造つくり
給たまひしものは天てんよて皆みな我わが子こなる
か故ゆゑよ我わか子この總そう體たいを眺ながめれば一いち人にん
一いつ物ぶつとして餘あますものなし中なかよは弱よわ

きもあり強つよきもあり足たるもあり足た
らざるもあり難なんよ罹かかるものなきよあ
らねば善よく其そのの不同どう異いを取とり分わけ
て弱よわきを助たすけ足たらざるを足たし災さい難なん
を救すくひ助たすけ給たまふ所ところ之これ自し然ぜんの如ごとし
皆みな一ひと列つらよ貫つらぬきて立たち榮さかえしめ賜たまふ
なり則すなはち此この大おほ御み心こころ如ごとく天てんよて月な助たすけ

の本體なり

故ゆゑ一いち日救ひきうと月助つきすけは真心まごころの一いちなり

第一だいいち日救ひきうと月助つきすけは道みちの一いちなり

故ゆゑ二に日救ひきうと月助つきすけは徳とくの一いちなり

第二だいに日救ひきうと月助つきすけは徳とくの一いちなり

故ゆゑ三さん日救ひきうと月助つきすけは徳とくの一いちなり

第三だいてん日救ひきうと月助つきすけは徳とくの一いちなり

故ゆゑ一いち日救ひきうと月助つきすけは寶たからの一いちなり

第四だいに日救ひきうと月助つきすけは寶たからの一いちなり

故ゆゑ二に日救ひきうと月助つきすけは大おほいなる神かみ世よの

第五だいに日救ひきうと月助つきすけは大おほいなる神かみ世よの

故ゆゑ三さん日救ひきうと月助つきすけは大おほいなる神かみ世よの

第一だいいち日救ひきうと月助つきすけは大おほいなる神かみ世よの

故ゆゑ一いち日救ひきうと月助つきすけは大おほいなる神かみ世よの

世よの男をとこ柱はしらを立たつべきなり

故ゆゑよ人ひとは神しん力りきを本もとよ

第だい二に月つき助けを專もつぱらとして心こころの柱はしら大神おほいのかみ

世よの女め柱はしらと立たつべきなり

故ゆゑよ人ひとは神しん力りきを本もとよ

第だい三さん星かん度にんを專もつぱらとして心こころの柱はしら大神おほいのかみ

世よの守まも柱りはしらと立たつべきなり

故ゆゑよ人ひとは神しん力りきを本もとよ

第だい四し神か智ちを專もつぱらとして心こころの柱はしら大神おほいのかみ

世よの力ちから柱はしらと立たつべきなり

故ゆゑよ人ひとは神しん力りきを本もとよ

第だい五ご鎮ま魂けを專もつぱらとして心こころの柱はしら大神おほいのかみ

世よの控ひかへ柱はしらと立たつべきなり

茲こゝよ斯この心こころの柱はしら五ご柱はしらを以もちて正ただよ大おほ

神世の神人となるなり此の心の柱
一飲けても真心よあらず真心の本
は天の本心とある天祖大神の大御
心よして之れ則ち心の柱五柱の大
元なり此の心の柱五柱は天地自然
の大道よして至りて大神世の一の
大氣となる則ち斯の大氣の道は大

神世の一の大眞なり故よ神力を本
よ天の本心の如く心の柱五柱を我
が心の本眞よ定め以ちて左の腹(女
は右の腹)よ日救の男柱を立つるこ
と以ちて右の腹(女は左の腹)よ月助
の女柱を立つること以ちて星度神
智鎮魂の三柱は本心を本よ陽陰二

柱はしらの護まもりよ纏まとへること本ほん心しんを本もとよ
此この五ご柱はしらを一いちの大たい眞しんと心こころよ纏まとひて
大おほ神かみ世よのひと人ひとの眞ま心こころとなる故ゆゑよ大たい眞しん
と心こころよ纏まとひて動うごかす眞ま心こころの主ぬしとな
る之これと纏まとひて心こころの柱はしら大おほ神かみ世よのいち一いち
の親おや柱はしらと立たつるなり是これ大おほ神かみ世よの
一いちの大たい眞しんよして人ひと眞ま心こころの柱はしらなり此こ

の心こころの親おや柱はしら之これを纏まとひて一いつ戸この柱はしら
之これを纏まとひてこ家かの柱はしら之これを纏まとひ
て天てん下かの柱はしら之これを纏まとひて大おほ神かみ世よの
一いちの大おほ柱はしらよ立たつれば彌いよいよ大おほ安やす國くにと平たひら
けくこと安やすらけくこと正ただよ斯この道みちよ
具そなり來きたるなり故ゆゑよ世よのひと人ひと之これを纏まと
ひて一いつ戸このひと人ひとの心こころの柱はしらよ立たてたる

ならば其の身の罪咎皆盡き果てて
其の家の罪咎皆盡き果てて天地諸
神よ稱ふか故よ諸神の守りが山程
來り萬禍皆免れて煩ふことなく壽
命は長く家内一同和合となりて福
徳圓滿寶の山よ我の家始めよ隣家
の人か之れを纏ひて隣家の人の心

の柱よ立てたるならば隣家の罪咎
皆盡き果てて天地諸神よ稱ふか故
よ諸神の守りか山程來り萬禍皆免
れて隣家一體和合となりて煩ふこ
となく壽命は長く福德圓滿寶の山
よ隣家始めよ一町内か隣家始めよ
一村内か之れを纏ひて町家の人の

之れを纏ひて村家の人の心の柱よ
 立てたるならば町内罪咎皆盡き果
 てて村内罪咎皆盡き果てて天地諸
 神よ稱ふが故よ諸神の守りか山程
 來り萬禍皆免れて町村残らず一體
 和合煩ふことなく壽命は長く福德
 圓滿寶の山よ市郡府縣や全國一手

天下一般萬人一體之れを纏ひて一
 般人の之れを纏ひて一體人の心の
 柱よ立てたるならば天地諸神よ稱
 ふか故よ國津罪咎皆盡き果てて天
 地和合の守りか來り年年國難皆免
 れて天下萬人壽命か長く一體一致
 の和合となりて福德圓滿寶の山よ

之れを隆よ勤むる上は之れを盛よ
 行ふ上は國津病か皆盡き果てて年
 年豊作重り來り天下一般寶の山よ
 神世神世の天地の恵み國津寶か滿
 ちたるなれば國家萬人皆善人よ授
 け賜る天地の恵み天下の寶か滿ち
 たるなれば天下の萬人皆善人よ國

よ善人滿ちたるなれば國家の萬人
 皆安心よ天下よ善人滿ちたるなれ
 ば天下の萬人皆安心よ天下の安心
 天より來る天下の安心道より來る
 天下の安心自然の道よ自然は一體
 大眞よして動かす心の柱なり心の
 柱一の大眞を以ちて大神世の一と

治るなり則ち大神世の至りは天祖
大神の御錠給ふ所よして天地海神
一の大眞となり給ひて斯の御神徳
よ道りて世の中なかの凶悪きよくあく皆悉みまことごとく盡つ
き果てて大安國やすくにの一と治るなり世
の中なか粵こよ至らば他の物を盗み取る
と云ふ卑いやしき心こころが全く盡つきて無なきま

でも神徳物品や金員を他よ與へた
き心斗こころばかりとなる故よ物品餘りて山と
なる金銀寶たからの山やまとなる故よ金員かねも
欲ほあらず國の爲人の爲よ家業や職
務の道を樂む斗りとなる則ち神神
は顯あらはよ見ゆるか如く靈驗明げんあきらかとなり
給ふか故よ國は無敵の國となり家

天學教會本院發



は無敵の家となり人は無敵の人と
 なりて家家よは戸締の苦勞なく人
 の心か華やかよ神神の如くとなる
 之れ畏くも天祖大神の御位徳よ道
 りて定り至る所の大神世の一の治
 りなり

神を 救ふ 神世の一 卷の二終

明治四十年四月三日印刷
 明治四十年四月七日發行

神奈川縣武藏國都筑郡山内村石川三十八番地
 著作兼 發行者 服部 國光

東京府武藏國北多摩郡武藏野村境三十九七番地
 印刷人 高橋 清三郎

全府全國全郡府中町五千七百九十三番地

印刷所 天學教會本院活版部

神奈川縣武藏國都筑郡山内村石川三十八番地

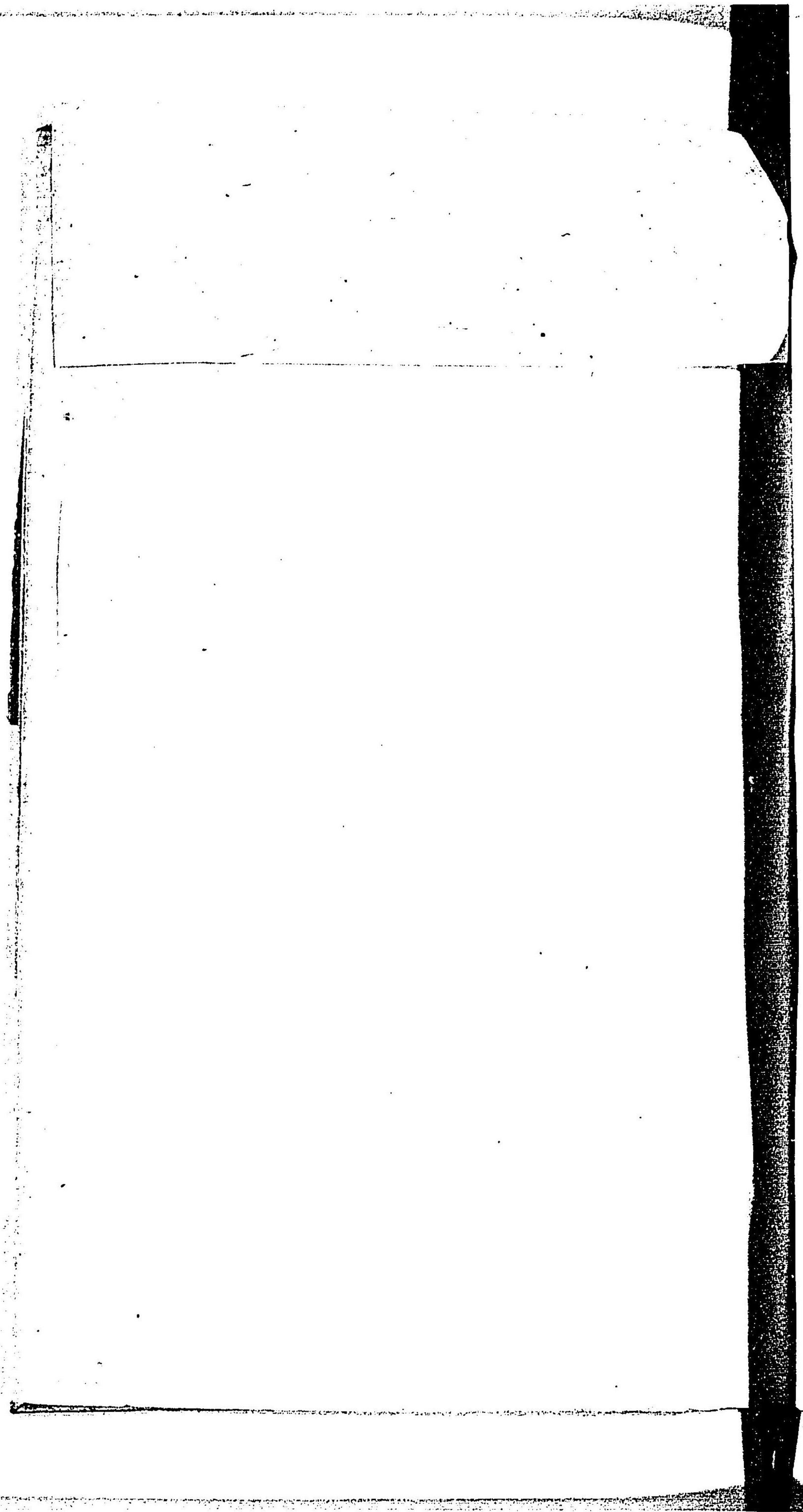
發行所 天學教會本院

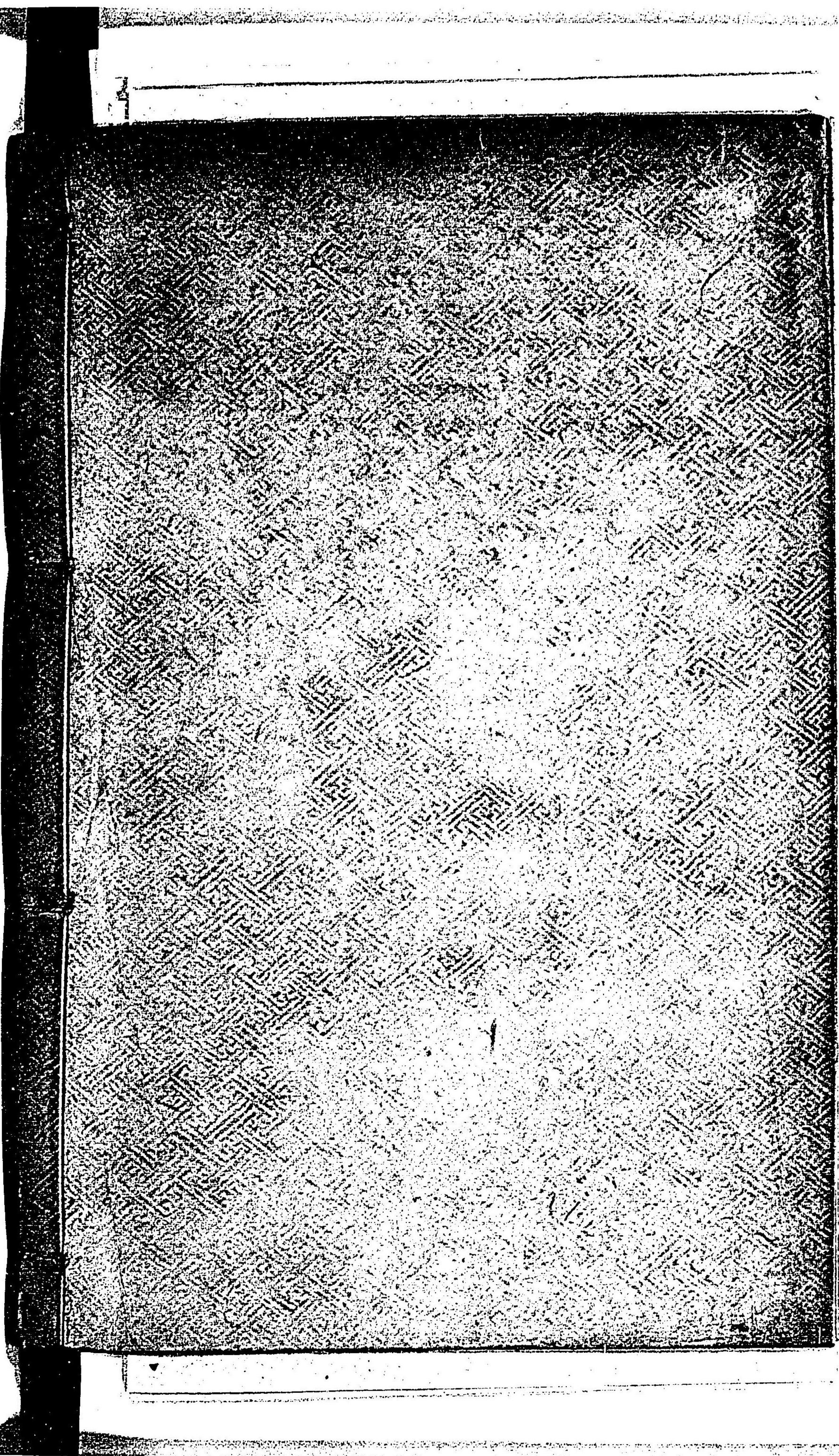


神世の救ふ 第二卷 正誤表

四九	四一	三九	三五	三三	三三	二九	二八	二七	二六	二三	一一	一一	二一	七
一	三	二	三	四	一	四	六	一	七	一	一	五	三	六
一	五	四	二	三	一	五	三	一	五	三	一	二	六	四
る	上	忠	賜	ば	り	寶	程	へ	大	法	け	倫	倫	思
一字順降	上	忠	賜	ば	り	寶	程	へ	大	法	け	倫	倫	思
二	九	八	八	八	八	八	七	七	七	六	四	四	四	四
五	六	二	六	一	六	二	五	三	二	六	二	六	二	二
八	一	一	六	六	二	二	一	一	五	六	一	一	一	四
斗	の	行	ま	を	味	富	虫	せ	愈	間	捨	捨	捨	誤
斗	の	行	ま	を	味	富	虫	せ	愈	間	捨	捨	捨	誤
以下全														正

249
13





249

3

13

